

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>文理融合の教育課程を編成し、全ての教科で生徒の総合知を醸成する探究的かつ教科横断的な学びを充実させる。</li> <li>課題研究活動や体験講座を中心に、科学的思考力や多面的多角的な思考力、優れた洞察力・判断力や表現力を育成する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>文系理系にとられない総合知を身に付けるために、教科横断的な内容を取り入れた組織的な授業改善を目指す。</li> <li>SSH 指定校としての指導体制を構築し、「理数探究基礎」と「K-ARP」における課題研究活動を発展させる指導方法を組織的に研究するとともに、科学分野の実践的・体験的な講座等を通じて科学技術人材の育成を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員間の相互の学び合いを通して授業力を高めるとともに、授業改善策の検討を行い、授業改善に向けた工夫を共有する機会を設定する。 ・各授業にて文理融合的な課題や先端分野の内容扱うSSHトピックを導入する。</li> <li>外部機関と連携した取組を進め、「理数探究基礎」の内容を拡充させるとともに、課題研究において指導法・評価法について研究し共有を図る。 ・学年単位の理数教育事業に加え、希望者対象の科学的体験や探究活動を行うカマクラボを実施する。 ・海外交流事業を継続・発展させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員間で他者の授業を見学する期間を設け、期間中に少なくとも1回は授業を見学するとともに、全職員で改善に向けた工夫を共有する場を設定できたか。 ・SSHトピックを各授業で扱うことができたか。</li> <li>各事業において、外部と連携した取組を効果的に実施できたか。 ・各事業において参加生徒への指導法・評価法を開発・検討することができたか。 ・海外交流事業を有意義な取組として実行し、その成果を共有できたか。</li> </ol>					
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者を思いやることのできる人間性、主体的な態度を育成する。</li> <li>学校行事、部活動と学習のバランスの取れた学校生活の支援体制を充実させる。</li> <li>人権を尊重しつつ、自らの知と徳を培い生きる力をはぐくむ。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校行事に対して、生徒が主体性を持ち企画立案・実施・検証することによって実践性・自主性・協調性を養い自己肯定感を高めることができるよう支援する。</li> <li>一人ひとりの生命と人権が尊重されるべく、自己理解を深めるとともに、他者への共感に基づいた倫理観と判断力を育成する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部の活動、学校行事の運営、部活動における継続的な支援を行う。</li> <li>現行の教育相談体制により生徒の情報を職員全体で共有し、将来に向けての指導・支援を充実させる。 ・継続的な注意喚起や指導により、SNS関連のトラブルの未然防止に務め、被害の拡大を防ぐ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>事後アンケートにおいて、生徒の主体性や創造性に関して、肯定的に回答した生徒が3分の2を超えたか。 ・行事の計画・実施・振り返りを通して、計画的かつ継続的なサポートをすることができたか。</li> <li>普段の生徒の様子だけでなく、かながわ子どもサポートドック等のデータにより生徒全体の傾向を読み取り、個に応じた支援ができたか。 ・SNSでのトラブルの発生時に当事者への迅速かつ適切な対応を実践したか。</li> </ol>					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりのキャリア形成に則した支援体制を整備する。</li> <li>難関国公立大学、難関私立大学への合格者数を増加させる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>キャリア形成に向け大学での学びや職業について生徒の理解が深まるよう支援する。</li> <li>生徒の成長過程を支援するとともに、とりわけ難関大学を第一志望校に掲げた生徒が十全に力を発揮できるようにする進路指導を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学の研究について生徒に紹介する機会を設ける。 ・今年度も卒業生のうち社会人として活躍している方のお話を『学習・キャリアワークブック』に掲載する。</li> <li>「第一志望を貫く」指導を組織的に行い、保護者および生徒に説明会を実施し、難関大学の情報を周知する。また、職員会議や学年会でも複数回説明し方針を徹底する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学の研究内容について紹介できたか。 ・社会人の原稿を『学習・キャリアワークブック』に掲載できたか。</li> <li>多様な情報を指導に生かすことで、スーパーグローバル大学（トップ型）への現役進学率が前年を超えたか。</li> </ol>					
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連する諸機関、団体との連携を進め、協働に取り組むこととおして、地域に信頼される学校づくりを行う。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>PTA や藤沢支援学校鎌倉分教室との連携を深め、学校行事等での交流を通して、相互の教育活動が連続的で互恵的となるような教育活動を展開する。</li> <li>学校外の機関・団体等との連携し、教育活動と生徒の学習成果の情報発信を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>日常的に、PTA や分教室と情報の交換や共有を行い、本校生徒との交流・理解を深め互いに良い関係が築けるような機会を推進する。</li> <li>学校外の機関・団体を学校の教育活動に生かしたり、生徒が地域の機関・団体へ参加や協力したりする機会の設定を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>PTA 活動との連携を深め、生徒が主体的に地域貢献活動に取り組む機会が昨年より増えたか。 ・分教室との交流機会が昨年度より増えたか。</li> <li>生徒が主体的に地域の機関・団体へ参加協力したり、生徒の学習成果を発表する機会を設けたりすることができたか。</li> </ol>					
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内組織をより活性化し、全職員の情報共有や運営参画を進める。</li> <li>施設・設備の維持や管理を適切に行い、生徒の安全と教育成果の拡充を図る。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>職場の目標や課題を全職員で共有し、個々の役割を理解し、主体的・協働的な業務参画と業務の効率化を推進する。</li> <li>生徒・職員が災害時に適切な判断と行動ができる、災害に対する意識の高い学校づくりの取組を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ICT の活用により意見集約や情報共有等を通して、業務の効率化を推進するとともに、主体的・協働的な業務参画を進める。 ・職員の意識啓発を図り、事故防止に取り組む。</li> <li>地域の避難所に指定されていることを踏まえた防災計画の策定と、実態に即した防災計画を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>企画会議を中心に各グループ業務の見直しを行い、業務の効率化と活性化を図ることができたか。</li> <li>生徒・職員が、地域の避難所として指定されていることを理解し、具体的な災害等に対する意識を高める訓練等を実施できたか。</li> </ol>					